

知識ゼロの26歳で創業、 人と運に恵まれた15年

有限会社信州雪国科学 綿貫昌夫さん

平成12(2000)年7月7日の創業から15年目を迎えている「有限会社信州雪国科学」。屋根融雪、床暖房、薪ストーブ、太陽光発電等の設備機器販売と施工を手掛け、業績を伸ばしている。創業者である綿貫昌夫代表取締役は、「失敗を含むさまざまなことがありながらも、あっという間の日々でした」と、振り返った。



■ 中学卒業後に大工という職人の道へ

幼い頃から母と妹との3人暮らしだったので、正直お金には苦労しました。そんな家庭の事情もあり、中学を卒業して働くことを決意しました。高校や大学を出ていなくても「何とかやっていかれそうかも…」と考えたのは、現場で手に職をつけることのできる大工の仕事でした。厳しい世界ですが、それだけ鍛えられたと思います。

■ 「お金を稼ぎたい」という素直な気持ち

私たち兄妹を養うために母が懸命に働く姿を見て来ましたから、働くこと自体に抵抗はありませんでした。ただし、ずっと苦労して来たからこそ「働く限りは相応の対価がほしい、たくさんお金を稼ぎたい」という気持ちが強かったのだと思います。いつからか、企業に雇われるのではなく、自分で会社を経営したいと思うようになっていました。すると偶然にも、それまで仕事でお世話になった方から「キッチンや浴室の組み立てをやってみないか」というお誘いをいただき、初めて個人で仕事の依頼を受けることになったのです。ただし、早くから働いていたとは言え、当時もまだ弱冠21歳の未熟者です。経営者の心得も会社経営のノウハウもない状態でした。



「弱音を吐いたり、相談ができない性格」と言う綿貫代表だが、一緒にバカになってお酒を飲んでくれる仲間を得たことで、一人ですべてを抱え込むことがなくなったそう。「尊敬されるポストで在りたい。だから誰よりも働くし、些細なことも見て見ぬフリはしません!」。

■ 奢らず謙虚に、でも堂々と自信を持って臨む

その後、運やタイミング、そして尊敬する会計士の先生をはじめとする人のご縁に恵まれて26歳で今の会社を立ち上げるに至りました。しかし、地域の役職などを担い始めると一切の余裕を失い、可愛がっていた社員が退職してしまいました。その時、つい疎かにしていた従業員や取引先の方々など周囲の人への感謝、奢らず謙虚な姿勢、細やかな気配りの大切さを再認識しました。また、プロとして信頼を得るためにはある意味での自信も必要です。「どんな場面でも気持ちを強く保とう」と、共に現場で闘う社員たちに言葉を掛けるようにしています。今後は、これまで以上に質の高い仕事を迅速にこなせるよう、組織づくりにも注力したいと考えています。



■ 周囲の人への感謝とお客様への誠意を大切に

今の私があるのは尊敬する方々や信頼する仲間と出会い、周囲から多くを学んで刺激を受け、成長させてもらえたからです。また、そもそもお客様あつての商売ですから、お客様に心底満足していただくための努力を惜しんではならないと思います。これからも【感謝と誠意】の心を大切に、全力で日々を過ごしたいと思います。

綿貫昌夫(わたぬき・まさお)
有限会社信州雪国科学 代表取締役

二級建築士、二級施工管理技士、木造住宅耐震診断士ほか。現在の住宅兼社屋が完成してからは、早朝5時(!)始業が日常になりつつあるのだとか。

